

金賞

市民賞

高校



大沢 幸助 (オオサワ コウスケ)

千葉県立京葉工業高等学校 建設科

自然の輪 ～芽から大樹へ～

本来は、幼少期の遊びの中で生きていく上で大事なことを学んでいく。しかし、最近の子ども達は安全管理の面や電子機器の普及によって外で遊ぶ機会が減ってきている。

そのため、室内で遊ぶ時間が増え、コミュニケーションが不足し、自ら行動することができなくなっている。

そこで、森の中にあるような幼稚園を考案した。

ここでは、子ども達の自主性を大事にし、子ども達自身で遊びを見つけ、日々新しい発見や探求をしたりすることができる。

様々な体験をすることによって人との助け合いや社会のルールなどを学んでいく。

自然のなかでのびのびと成長し、小さな芽である子供たちが巣立っていく頃には、たくましく大樹になっていくような学び舎を提案する。

伸びやかで開放的な空間を持つ幼稚園の提案である。大きな模型を覗くと、子供達が育つ場としての豊かな空間が随所にちりばめられており、見る方も思わずワクワクしてしまう様な空間提案がされている。

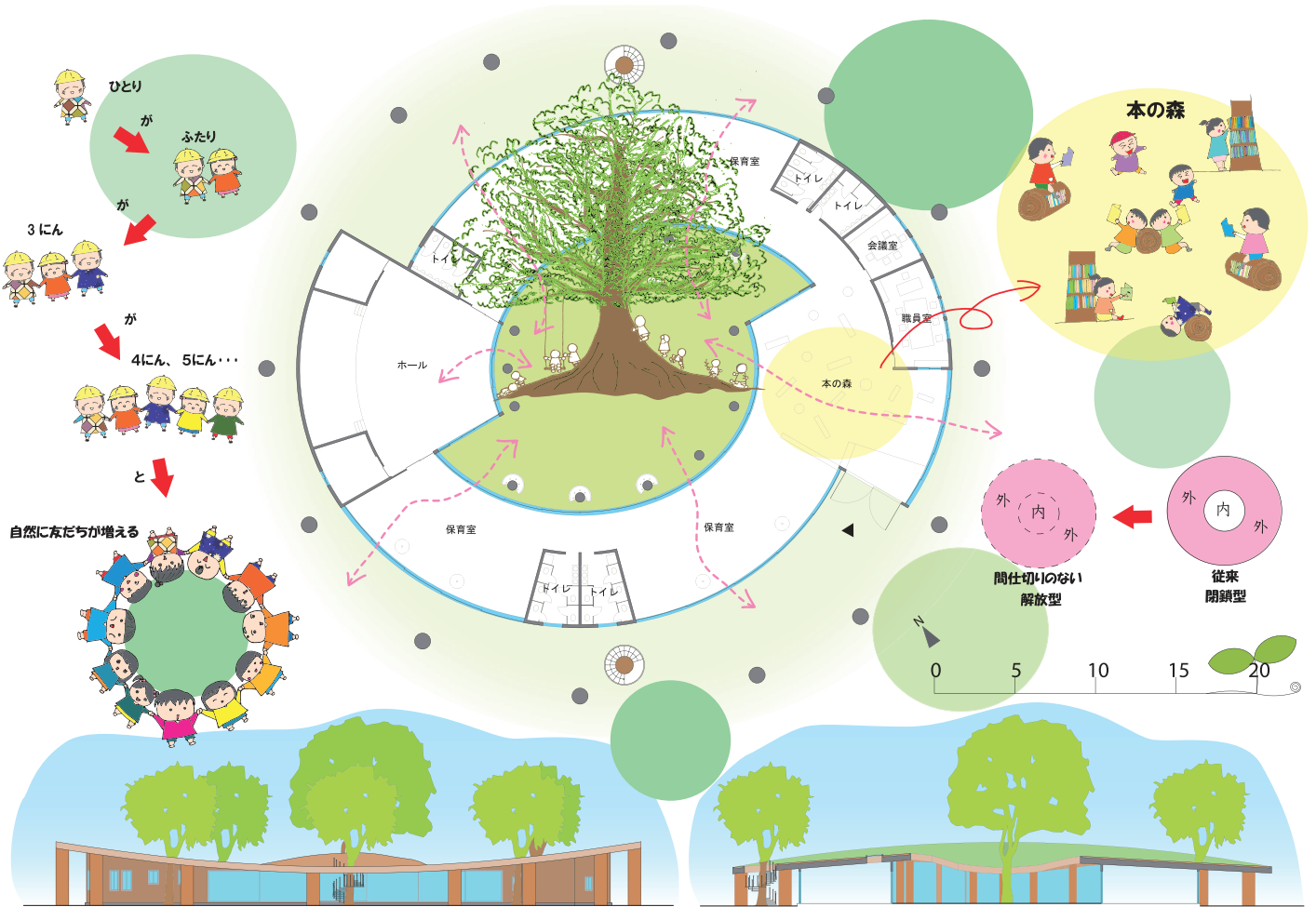
ラグビーボールの形状を半分に割ってずらした平面形状はエントランスの配置の仕方や、細長い室内空間と子供達の溜まりの場など、巧みに空間が構成されており、思わず唸らせるプランニングである。内部空間と中庭とのつながりや、ピロティとして計画した建物外周部の空間も魅力的である。柱の大きさ等、構造的な配慮までされているのは先生の指導もあったであろうが、諸室のレイ

アウトなど機能的な面もしっかりと提案されているのは、作者が丁寧にプロジェクトに向き合ったことの表れであり、その姿勢にも心を打つものがある。

提案された内容は多くの審査委員の心をつかみ、真に最優秀に相応しい作品であったと言える。作者はこれから更に建築を深く学ばれるであろうが、大きな期待と、最大限の賛辞を送りたいと思う。



審査員：皆川 拓



北立面図

断面図

自然の輪 芽から大樹へ

本来は、幼少期の遊びの中で生きていく上で大事なことを学んでいく。しかし、最近の子ども達は安全管理の面や電子機器の普及によって外で遊ぶ機会が減ってきている。そのため、自然と個室で遊ぶ時間が増えコミュニケーションが不足し自ら行動することができなくなっている。そこで、森の中にいるような幼稚園を考案した。ここでは、子ども達の自主性を大事にし、子ども達自身で遊びを見つけ、日々新しい発見や探究をしたりすることができる。また、さまざまな体験をすることによって人との助け合いや社会のルールなどを学んでいく。自然の中でのびのびと成長し、小さな芽である子ども達が巣立っていく頃には、たくましく大樹になっていくような学び舎を提案する。

